

第3学年 国語

第3学年の学習到達目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

第3学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 様子や気持ちが伝わるように音読しよう すいせんのラップ 自分をしょうかいしよう	●場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、音読する。 ●いくつかの観点から、書くための材料を探す。	○場面の様子を想像し、言葉のリズムを楽しみながら声に出して読む。 [声の大きさと高さ] ○事柄を選び、みんなの前で自己紹介する。
	二 だん落に気をつけて読もう 自然のかくし絵 かんさつしたことを書こう	●段落ごとのまとまりに注意して、書かれていることを正しく読み取る。 ●観察して気づいたことを、事柄ごとに整理して書く。	○段落ごとに内容を正確に読み取る。 ○観察して気づいたことを、段落の役割を意識して文章に書く。
	三 物語のあらすじをとらえよう ゆうすげ村の小さな旅館	●場面の展開を読み取って、物語のあらすじをまとめる。	○場面の移り変わりに注意して、物語のあらすじを読み取る。
	四 書く人のくふうを考えよう 「ほけんだより」を読みくらべよう 心にのこったことを書こう	●事柄の取りあげ方や、説明の仕方を読み取る。 ●伝えたいことの内容を考え、書く材料を選んで書く。	○二つの文章を比べる観点について理解する。 ○伝えたいことの内容を考えて、書くことを選び、文章の組み立てを考える。
	慣用句を使ってみよう 詩を読もう 紙ひこうき 夕日がせなかをおしてくる	●慣用句について知り、慣用句を使った短文を書く。 ●場面の様子や人物の気持ちを思い浮かべながら、詩を声に出して読む。	○慣用句を集め、意味を調べる。 ○慣用句を使って短文を作る。 ○詩の場面や様子にふさわしい読み方を工夫して読む。
	話したいな、夏休みの出来事 案内の手紙を書こう	●順序よく筋道を立てて話す。自分と比べながら聞く。 ●案内するときに大事なことを落とさないように書く。	○スピーチ原稿やスピーチメモを使って話す練習をする。 ○案内する際に落とせない事柄と手紙の形式や手紙文に用いる言葉を知る。
	一 人物の気持ちを考えながら読もう サーカスのライオン お話を作ろう	●物語の中心となる人物の気持ちを考えながら読み、いちばん強く心に残った場面を発表する。 ●地図を手がかりに想像を広げ、場面を整理してお話を書く。	○物語の中心になる人物の気持ちを考えながら読む。 ○心のふれ合いを描いた物語を読む。(読書) ○想像したことをもとに、出来事の順序を考えてお話を書く。
	二 はたらく犬について調べよう もうどう犬の訓練 こちら、「子ども相談室」	●書かれていることを段落ごとに読み取り、盲導犬について調べて分かったことを話し合う。 ●自分の考えと理由を分かりやすく話し、相手の伝えたいことを考えながら話し合う。	○考えたことや調べて分かったことをグループで話し合う。 ○相談するときの話し合いの仕方や進行係の役割について考え、役割を交代しながら話し合う。
	三 調べたことを整理して書こう 研究レポートを書こう	●知りたいことについて調べ、調べたことを整理して文章に書く。	○調べた事柄を整理し、文章の組み立てを考えてレポートの形式に書く。
	四 世界の民話を読もう 木かげにごろり 俳句に親しもう	●民話のおもしろさを読み味わうとともに、いろいろな民話を紹介する。 ●俳句を声に出して読んで、言葉の響きやリズムを感じ取るとともに、情景を思い浮かべる。	○場面の移り変わりを読み取り、民話のおもしろさを考える。 ○世界の民話を読んで紹介する。(読書) ○俳句を音読したり暗唱したりして、言葉の響きやリズムを味わう。 ○「四季のしおり」を作る。また、句碑について知る。

	くらべて分かったことを書こう	●同じところと違うところを整理して文章を書く。	○二つの物を比べて分かったことをメモに整理し、文章に書く。
後期	五 調べたことを整理して発表しよう わたしたちの町の行事をしようかしよう	●調べたことを整理して、分かりやすく説明する。	○調べる内容や方法についてグループで話し合い、いろいろな方法で取材し、調べたことを整理する。 ○資料を用意し、発表原稿を書く。
	六 世界の家のつくりについて考えよう 人をつつむ形—世界の家めぐり	●文章や絵から読み取ったことをもとに考える。	○家のつくりと、気候や人々の暮らしを関係付けて読む。 ○考えたことを、理由を挙げて書く。
	「わたしの作品集」を作ろう	●これまでに書いた文章を読み合い、1年間を振り返る。	○これまで書いた文章の中から選んで紹介する文章を書く。 ○書いた文章をまとめ、感想カードを本に付けて「わたしの作品集」を作る。
	七 場面の様子を思いうかべながら声に出して読もう 手ぶくろを買いに	●読み取ったことをもとに音読発表をする。	○指示叙述をもとに、人物の気持ちの変化や情景を想像して読む。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。</p> <p>【話す・聞く能力】 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。</p> <p>【書く能力】 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。</p> <p>【読む能力】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>① 児童の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の重視 これまでは、児童が身につけた知識・理解・技能を重視していましたが、児童の学習意欲や思考力・判断力・表現力などの観点も大切にして評価します。</p> <p>② 個々の児童を多面的に評価 これまで重視してきたペーパーテストだけでなく、児童自身が作った作品、発言、ノート、アンケート、自己評価、相互評価など様々な方法により評価します。</p> <p>③ 学習の進行中における評価 学習の進行中に現れる児童の思いや願いを、その都度評価し児童の指導に生かします。</p> <p>④ 自己評価の重視 友達や教師とのかかわり合いの中から、児童自らが、自分自身の学習の仕方や理解の程度など自己評価したものも参考にします。</p>
---	---

特色ある学習方法

<p>(1) 音読発表会、想像物語作成、放送番組制作など、活動的な学習を仕組み、楽しみながら学習します。</p> <p>(2) 発声練習を取り入れ、正しい発声で音読ができるようにします。</p> <p>(3) 調べ学習では、学校図書館やインターネットで調べたり、時には地域に出て調べたりします。</p> <p>(4) 図書ボランティアの先生に朗読を聞かせてもらいます。</p>
--

使用教材等

<p>○ 教科書「新しい国語 3年」 東京書籍 ○ 漢字ドリル ○ 音読詩集「かけっこ」</p> <p>○ 学習の興味を高め、理解を深めるため、図鑑、事典、インターネット情報などを教材として活用します。また、点字の学習では点字版、点字の本などを使用し、実感を伴う学習をします。</p> <p>○ 教科書教材と関連付け、同じ作者の他作品や類似のテーマの作品を取り入れていくことで、自分の考えをより深めたり、読書活動を広げたりします。調べ学習では、学校図書館を軸に課題を追究できる力へつなげます。</p>
--

留意事項

<p>(1) ノートについて 年度当初は学校から配布したノートを使い、使い終わった時点で、同じノートを各家庭で用意してください。</p> <p>(2) 家庭での音読にご協力をお願いします。 文章を正しくすらすらと読めることは理解につながります。毎日の課題として音読を出しますので、聞いてあげてください。</p> <p>(3) 漢字学習に根気よく取り組めるように支援をお願いします。 中学年は新しく学習する漢字の量がとても多く、漢字嫌いの子が増える時期でもあります。楽しくやる気をもって取り組める工夫をしていきますが、こつこつ丁寧に取り組めることが何より大切です。</p>
